

# Q. 暑い時期でも牛を健康に飼う秘訣は？

## A. 採食量を回復させ、牛を活動的にすることです。

そのためには…牛にストレスを与えない快適な環境づくりが必要です



### 豆知識 牛もつらいよ!!

「新鮮な空気と快適な温度」が必要な理由

たくさんの生乳を生産し、大きな体を維持しながらお腹の胎児を育てる乳牛。一見、牛舎でのんびり過ごしているように見えますが、日々、代謝・生産活動という激しい運動をしており、実は一日中マラソンをしているような状態なのです。

「新鮮な空気を十分に呼吸できること」は、乳牛の健康を維持するためにとっても重要です。



ココがポイント

## 最適な送風・換気と最適な細霧冷却で相乗効果を生み出すことが重要です。

### ■ 暑熱対策の必要性

牛は暑さに弱い動物なので、飼養する上で暑熱対策が必須です。一般的な対策は大型換気扇による送風と換気が主流です。適切な送風と換気は、悪臭の発生を防ぐ効果もあります。しかし、外気温そのものが高いつきはいくら送風を強めても熱風が回るだけです。

【暑熱ストレスによる影響】

- ① 牛の胃運動・免疫力の低下
- ② 乳牛では、採食量(乾物摂取量)が低下し乳量や乳成分が低下
- ③ 繁殖成績の低下
- ④ 疾病発生率の増加

### ■ 気化熱による冷却

そこでおすすめなのが、超微粒子の霧を発生させ、効率よく気化熱による冷却を行う細霧システムの導入です。牛舎内の気温を低下させると同時に、牛の体温も低下させることができます。酪農では一般的になってきたこの細霧冷却は、肉用牛においても非常に有効です。

【超微粒子の霧の効果】

超微粒子のため直進性が強く、大型換気扇の強風でも、牛体まで届きます。

気化しやすく、牛体や敷料、飼料、牛床、牛道は濡れません。

### ■ 大型換気扇と細霧システムの併用

一般的に気化熱による冷却は、湿度が低いときには極めて高い効果がありますが、湿度が高いと気化冷却の効果が薄れてしまいます。そのため、高湿度とならぬよう、畜舎構造に適合した適切な大型換気扇が設置されているかが重要なポイントとなるのです。

大型換気扇と細霧システムの併用により、気化熱で牛体と牛舎内の”温度を低下”させながら、“湿度の上昇”もおさえます。

【暑熱対策としての細霧システム導入で期待される効果】



## 牛がリラックスできる「快適な環境」づくりこれが牛の「健康」と「最大の生産性」をもたらします。

〈監修〉

株式会社クボタ 農機国内営業本部  
アグリソリューション推進部 営農技術課

技術顧問  
〔総括畜産コンサルタント〕 三上 隆弘

元 公益社団法人 中央畜産会経営支援部 次長



# クボタの畜舎向け細霧システム「ドライフォグシステム」はココが違う

**強い風にも耐える  
超微粒子の  
濡れない霧**

涼しい~

キモチええ~

作業が快適~

〔霧の粒子の大きさ〕	
ドライフォグ	ミスト
	
φ10~25μm	φ30~50μm

(参考) 1mm=1000μm

## 超微粒子のドライフォグだからできること

- 1 換気の強い風に流されにくく  
**牛に直接届く!!**
- 2 牛の体表から  
**直接熱を奪う!!**
- 3 ぼた落ちしないノズル  
**不快を回避!!**
- 4 接触面積が大きいので  
**気化しやすい!!**
- 5 牛体や敷料、飼料、牛床、牛道が  
**濡れないので快適!!**

**ドライフォグで真の快適空間を!**



暑熱対策に関するお悩み事にお応えします。  
お近くのクボタの営業マンにお申し付けください。



**クボタアグリサービス株式会社**  
農業施設部

〒338-0832 さいたま市桜区西堀5-2-36  
TEL 048-862-1145 FAX 048-861-1594



製品紹介  
(動画はこちら)



ユーザー  
インタビュー



製品の詳しいご相談は  
下記までご連絡ください。



安全宣言  
安全はクボタの願い

取扱説明書をよく読んで正しく安全に使いましょう。  
農業機械はじゅうぶんに点検整備するように心がけましょう。